

<p>(1) 調査の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。 ○学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 ○以上のような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。 	<p>(2) 対象学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校及び支援学校小学部第6学年 ○中学校及び支援学校中学部第3学年 	<p>(3) 調査内容</p> <p>I. 教科に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校調査は、国語、算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。出題範囲は調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は以下のとおりとする。 ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等 <p>II. 質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）</p>
--	--	---

教科に関する調査結果

平均正答率 (%)

小学校

	貝塚市	大阪府	全国
国語	66	66	67.2
算数	63	62	62.5

中学校

	貝塚市	大阪府	全国
国語	66	68	69.8
数学	47	50	51
英語	40	45	45.6

各教科の状況

○小学校国語

正答率が大阪府平均に並びました。特に、条件に合わせて問題点と解決方法を書く問題において、全国平均を超える結果が得られました。それは、「論理的に考え表現すること」について各校が重点的に取り組んできた成果だと考えます。また、「知識・技能の確実な習得」に関しても、小学校の国語では、国や大阪府と同等の結果が出ています。

○小学校算数

正答率が全国平均を上回りました。特に、底辺が同じで形が違う三角計の面積がなぜ同じになるのかを問う問題では、全国平均よりも約10ポイントほど高い結果となり、国語と同様に「論理的に考え表現すること」を課題として取り組んできた成果だと考えます。しかし、算数の用語や図形の性質を問う問題など「知識・技能の確実な習得」については、数値がまだ十分に上がっていません。今後は授業の中で、言葉の意味理解をしっかりと意識させることが必要であると考えます。

○中学校国語

文章を読み、要旨を把握する力を問う問題において、府や国の正答率を超える結果となりました。一方、読み取ったことから根拠を明確にし、自分の考えを記述する問題は、正答率が約42%と低い結果となりました。授業の中で、なぜ自分はそう考えたのかを説明する機会を多くもつことにより、論理的に考え表現する力を身に付けさせることが必要であると考えます。

○中学校数学

「数と計算」領域で、令和4年度の結果より向上が見られます。各校で取り組んでいる基礎基本の定着を意識した取り組みの成果だと考えます。一方、グラフと式の関係性を読みとったり、グラフや式を用いて問題解決の方法を説明したりする問題においては、国や府の正答率よりも低い結果となりました。また、記述式の問題の無解答率が約30%となっている問題もあります。答えを出すだけでなく、その解き方や考え方を説明するなど、論理的に考え表現する機会をより多くとる授業改善を行っていくことが必要であると考えます。

○中学校英語

「聞くこと」の項目で正答率は約52%と、半分以上の生徒が理解している結果となりました。これは、授業中の教師の英語発話75%以上をめざし取り組んできたことや、目的・場面・状況に応じた使える英語の習得をめざしてきた成果だと考えます。しかし、質問の内容を理解し自分の考えを述べる部分については、課題があることが分かりました。英語だけでなく全ての教科で、シンキングツール等を活用し、自分の考えを整理しまとめる力と、それを表現する力の育成に取り組んでいくことが必要であると考えます。

小学校国語	学習指導要領の内容	平均正答率 (%)		
		貝塚市	大阪府	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使いに関する事項	69.4	71	71.2
	情報の扱い方に関する事項	64.3	62.6	63.4
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	72.3	70.9	72.6
	書くこと	27.6	24.2	26.7
	読むこと	68.6	69.2	71.2

小学校算数	学習指導要領の内容及び評価の観点	平均正答率 (%)		
		貝塚市	大阪府	全国
領域	数と計算	67.7	66.8	67.3
	図形	50	48.4	48.2
	変化と関係	68.6	70.8	70.9
	データの活用	65	63.8	65.5
評価の観点	知識・技能	66.7	67.1	67.2
	思考・判断・表現	57.6	55.7	56.5

中学校国語	学習指導要領の内容	平均正答率 (%)		
		貝塚市	大阪府	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使いに関する事項	63.7	68.9	67.5
	情報の扱い方に関する事項	58.5	61.6	63.4
	我が国の言語文化に関する事項	70.2	72.3	74.7
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	79.5	79.5	82.2
	書くこと	60.5	62.1	63.2
	読むこと	59.9	60.8	63.7

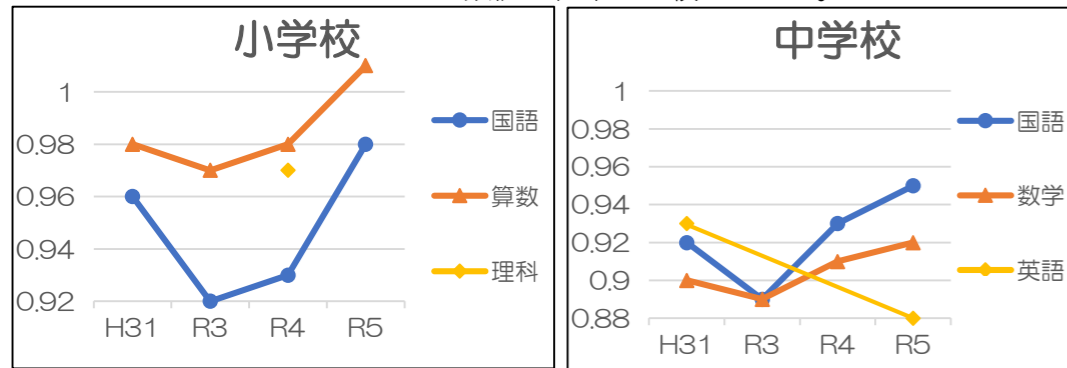
中学校数学	学習指導要領の内容及び評価の観点	平均正答率 (%)		
		貝塚市	大阪府	全国
領域	数と計算	60.3	63.2	63.0
	図形	29.4	33.4	33.2
	関数	46.4	49.5	51.2
	データの活用	45.1	45.0	48.5
評価の観点	知識・技能	52.4	55.1	55.7
	思考・判断・表現	37.4	39.6	41.6

中学校英語	学習指導要領の内容及び評価の観点	平均正答率 (%)		
		貝塚市	大阪府	全国
領域	聞くこと	52.3	57.4	58.4
	読むこと	44.1	50.2	51.2
	話すこと [やり取り]	9.6		14.5
	話すこと [発表]	2.7		4.2
評価の観点	書くこと	19.7	24.8	23.4
	知識・技能	45.2	51.2	51.5
	思考・判断・表現	33.8	38.7	38.8

※表中の「貝塚市」、「大阪府」、「全国」については、「貝塚市内公立学校」、「大阪府内公立学校」、「全国の公立学校」の平均正答率 (%) を表しています。

対全国比の経年比較

貝塚市の平均正答率を全国の平均正答率でわり、全国の正答率を1（基準）としたときの貝塚市の数値を経年で比較しました。



(小学校)

国語：令和3年度から令和4年度にかけては0.01ポイント上昇し、令和4年度から令和5年度にかけては0.93から0.98と0.05ポイント上昇しました。

算数：令和3年度から令和4年度にかけては0.01ポイント上昇し、令和4年度から令和5年度にかけては0.98から1.01と0.03ポイント上昇し、国平均を超えました。

国語は大幅上昇、算数は国の平均を上回る結果となりました。

(中学校)

国語：令和3年度から令和4年度にかけては0.04ポイント上昇し令和4年度から令和5年度にかけては0.93から0.95と0.02ポイント上昇しました。

数学：令和3年度から令和4年度にかけては0.02ポイント上昇し、令和4年度から令和5年度にかけては0.91から0.92と0.01ポイント上昇しました。

英語：以前、調査のあった平成31年度から令和5年度にかけては、0.05ポイント低下しました。

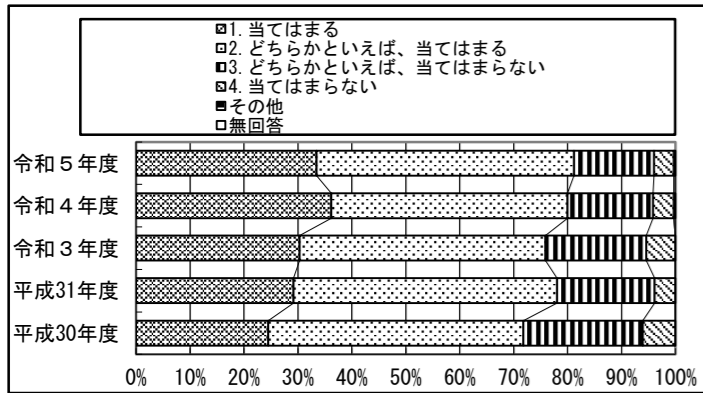
国語と数学は国の平均との差が令和3年度から徐々に縮まっています。

貝塚市の結果分析

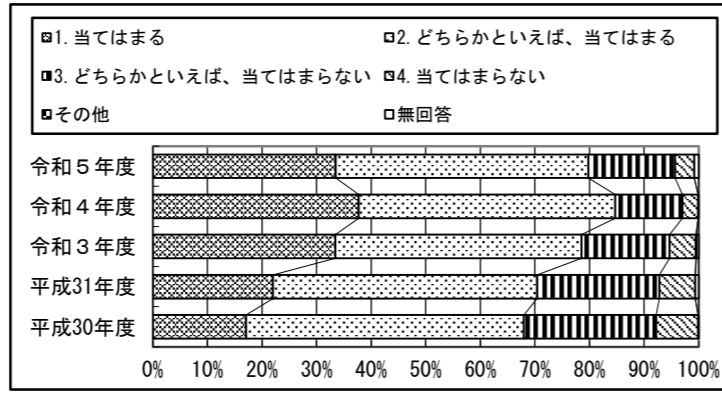
児童生徒質問紙調査結果

5年生（1、2年生の時）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

小学校



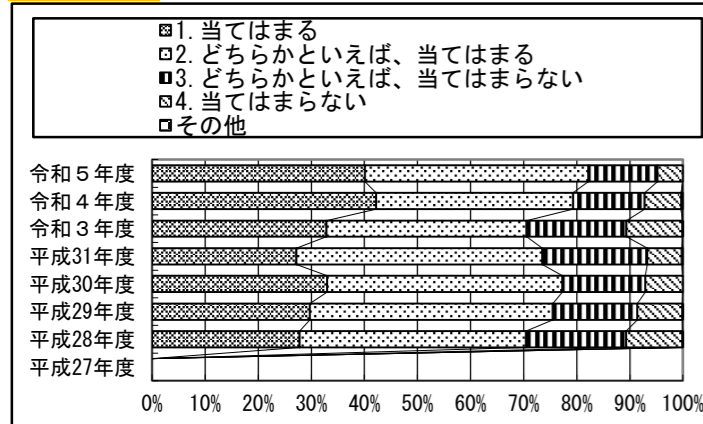
中学校



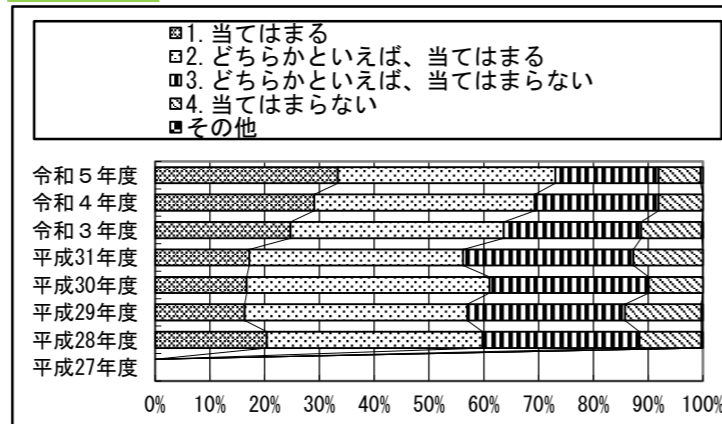
小中ともに、肯定的回答の割合が約80%にのぼります。授業づくりにおいて、児童生徒が自分で考え、課題を見つけ、解決していきけるような授業づくりをすすめていきます。

自分には良いところがあると思いますか。

小学校



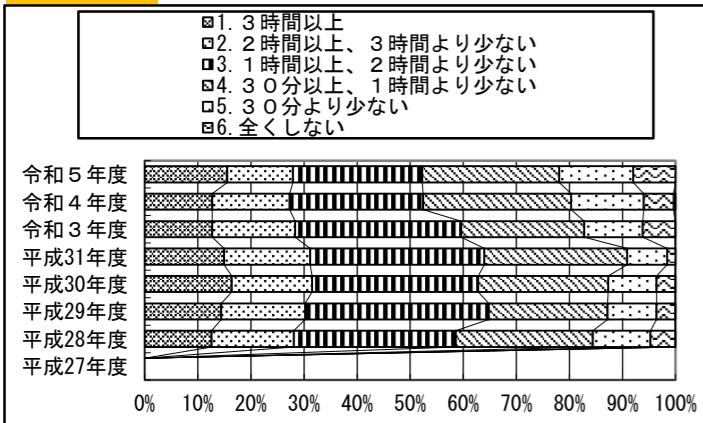
中学校



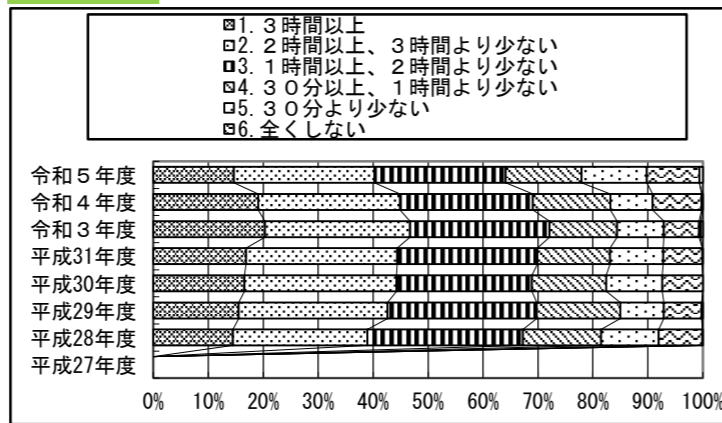
年々、肯定的回答の割合が増加しています。貝塚市の教育の主軸の一つである人権教育の成果であると考えます。今後も、児童生徒のありのままを受け止め、自己肯定感を高める人権教育に取り組んでいきます。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾等で勉強している時間やインターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学校



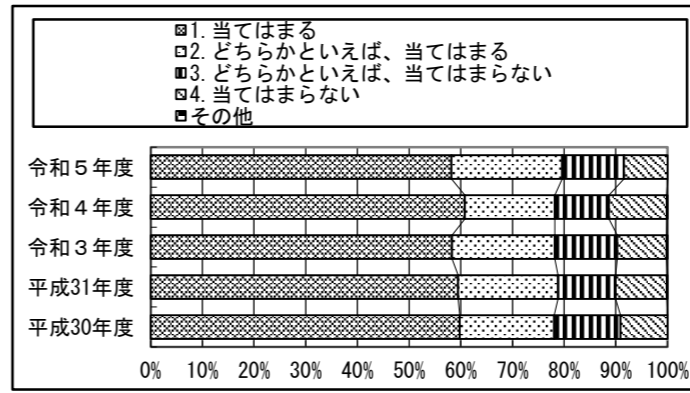
中学校



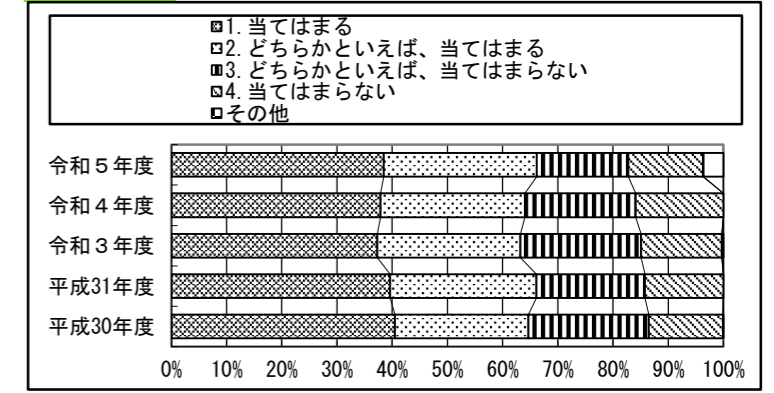
右端の「全くしない」と回答した児童生徒の割合が、年々増えていることが分かります。今後必要なのは、児童生徒が自分自身の学習を計画する力や方法を身に付けることです。このような力をつけるための児童生徒への支援方法について研究を進めてまいります。

将来の夢や目標を持っていますか。

小学校



中学校



貝塚市では、身近な自然や歴史、文化にふれることや、地域での体験活動などを通して、「夢」をもち、たくましく生き、貝塚で学んだことを「誇」らしく語ることで育てる子どもたちを育てることを目的に、「貝塚学」に取り組んでいます。当然、成長するにしたがって、夢や目標が変わったりすることはありますが、その時々で変わったとしてもそれを支える環境が大切です。児童生徒が将来への夢をもつことができるよう貝塚学を大切にするとともに、キャリア教育の更なる充実に努めてまいります。

今後に向けて

全国学力・学習状況調査は、児童生徒の学習状況を把握・分析するための1つの手段です。子どもたちに育成すべき資質・能力をつけることができているのかをこの調査で検証します。

今回の分析結果を学校・家庭・教育委員会で共有するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現させる視点で、今後の授業づくりに向けて以下の内容を中心に取り組んでまいります。

- 子どもたち一人ひとりの学習状況を丁寧に把握し、子どもたちの知識・技能の確実な習得や論理的に考え表現する授業づくりの更なる充実に取り組みます。
- 自分の考えを整理しまとめ、説明する力を高める授業改善を進めていきます。
- 子どもたちの学校での様子や取り組み内容が、保護者や地域の方々にもご理解いただけるように積極的に情報発信し、家庭・地域と連携した取り組みを推進していきます。
- 家庭学習の仕方や効果的な方法について、子どもたちが自ら考え、計画を立てられるよう、支援方法を研究していきます。
- 数値で図ることのできない「非認知能力」を育むことで、「自己有用感」「自己肯定感」の向上を土台として、「認知能力」の向上も図っていきます。
- 「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを充実させる為、ICTを活用し「個別最適な学び」や「協働的な学び」の一体的な推進について研究していきます。

これらは、児童・生徒質問紙から、市の取り組みと関係があり、成果や課題が見えてきたものを中心に抜粋したもので、子どもたちの生活をみとるための重要なデータとなっています。

今回の全国学力・学習状況調査の分析結果をふまえた課題を共有し、学校と家庭で協力し、子どもたちの健やかな成長を促していきたいと考えます。

今、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等、Society5.0という言葉に象徴されるように、子どもたちを取り巻く環境は、加速度的に変化し予測困難な時代を迎えています。そのような時代を生き抜いていくために必要な「生きて働く知識・技能」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」の育成をめざしてまいります。